

平成23年度(第13期)決算について

平成24年5月11日
西日本電信電話株式会社

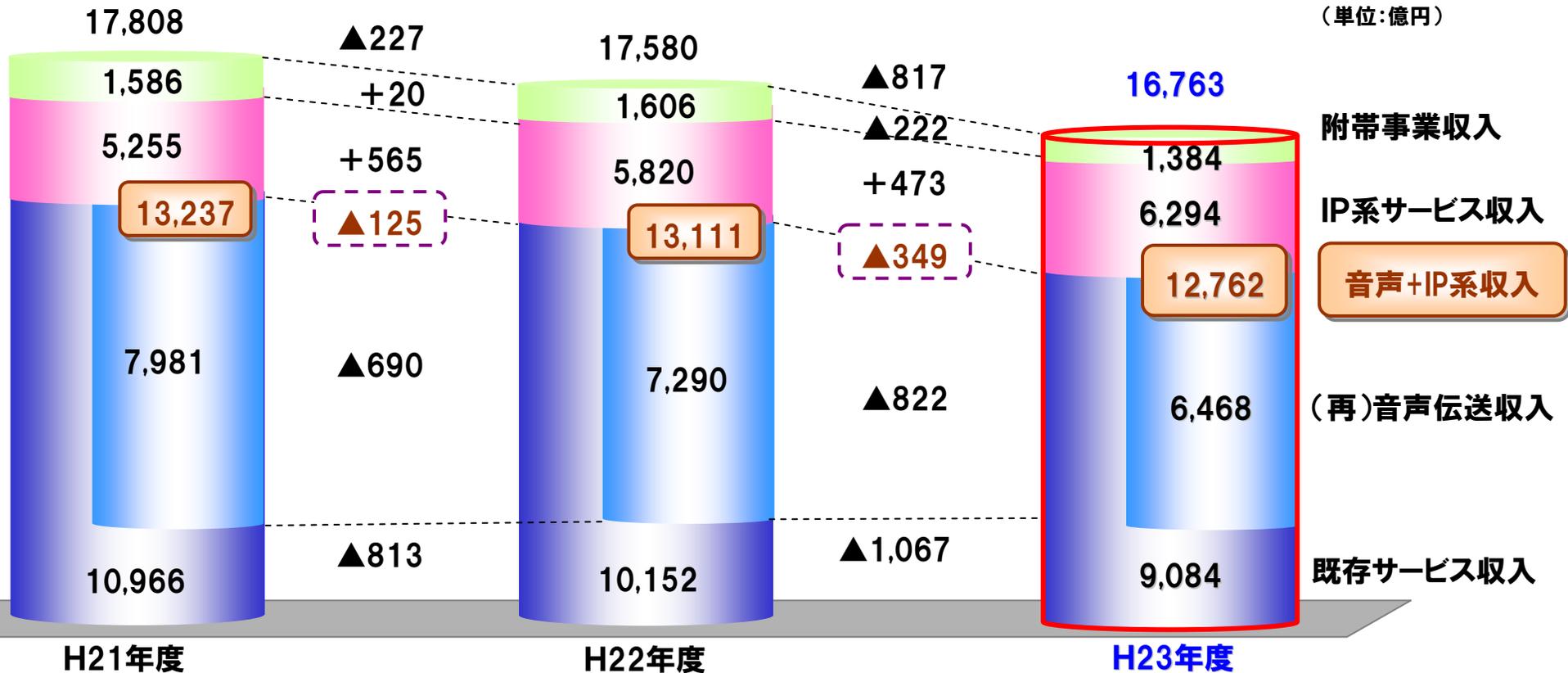
平成23年度決算概要

(単位:億円)

	H23年度	H22年度	増減	増減率	H23 業績予想	増減
営業収益	16,763	17,580	△817	△4.6%	16,820	△56
営業費用	16,393	17,084	△691	△4.0%	16,320	73
営業利益	370	496	△126	△25.4%	500	△129
経常利益	423	630	△207	△32.8%	600	△176
当期 純利益	204	490	△285	△58.2%	330	△125
設備投資	3,638	3,731	△92	△2.5%	3,650	△11

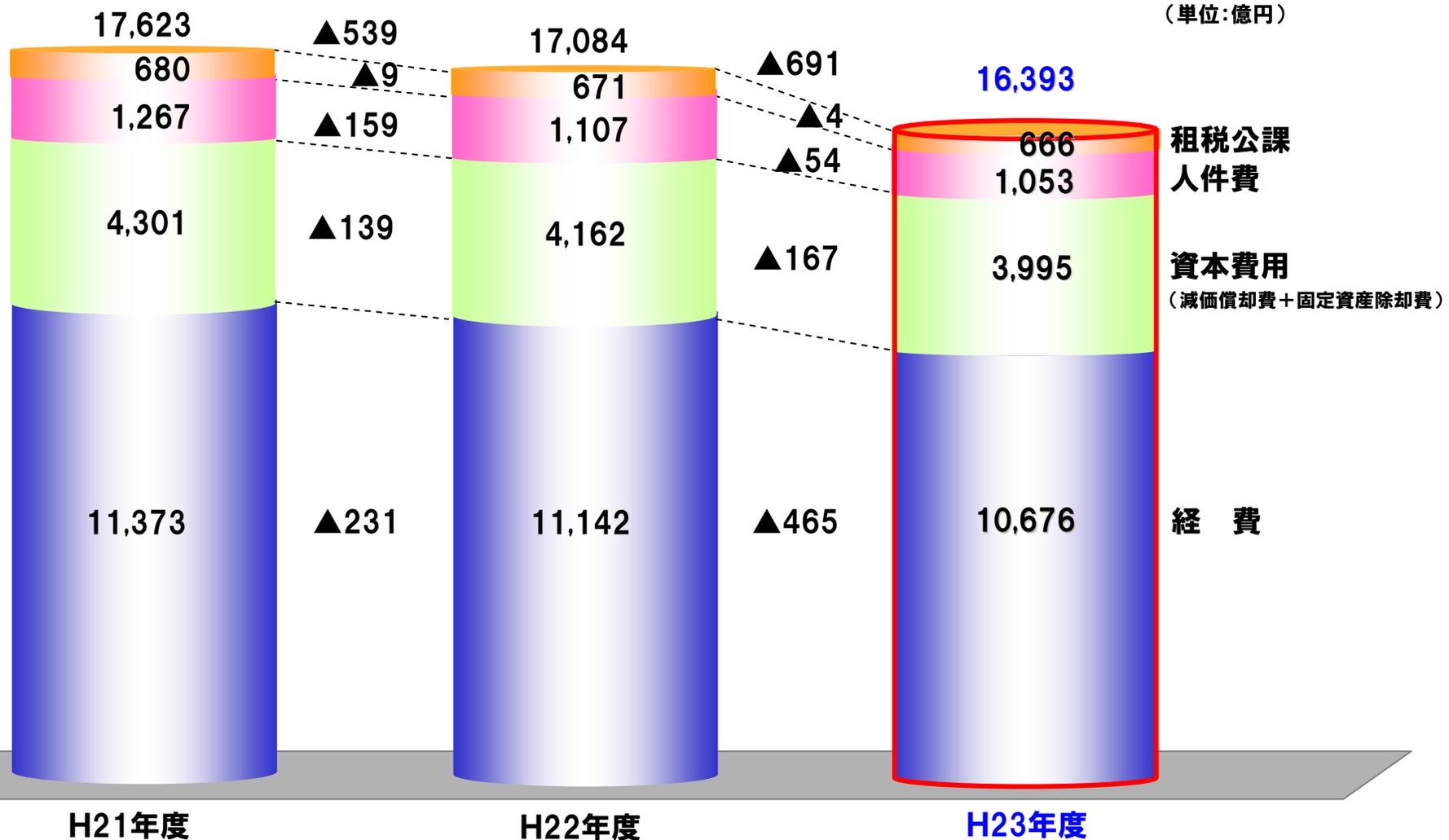
営業収益の推移

➤ 光純増数の減、トラフィック減トレンドの拡大等による『音声+IP系収入』の減収幅の拡大、および附帯事業収入の減により、営業収益の対前年減収額は拡大。



営業費用の推移

➤ 内製化・業務の効率化、既存設備の利活用等による徹底したコストコントロールにより、対前年▲691億円の削減を実現。



平成24年度業績予想

(単位:億円)

項目	平成24年度 業績予想	対前年増減	3/1発表の計画 からの修正額
営業収益	16,450	▲313	▲100
IP系サービス収入	6,700	+405	▲50
既存サービス収入	8,230	▲854	▲50
(再)音声伝送収入	5,810	▲658	▲10
附帯事業収入	1,520	+135	0
営業費用	16,050	▲343	0
人件費	1,090	+36	0
経費	10,450	▲226	0
資本費用	3,840	▲155	0
租税公課	670	+3	0
営業利益	400	+29	▲100
経常利益	500	+76	▲100
当期純利益	400	+195	—

今後の事業運営について

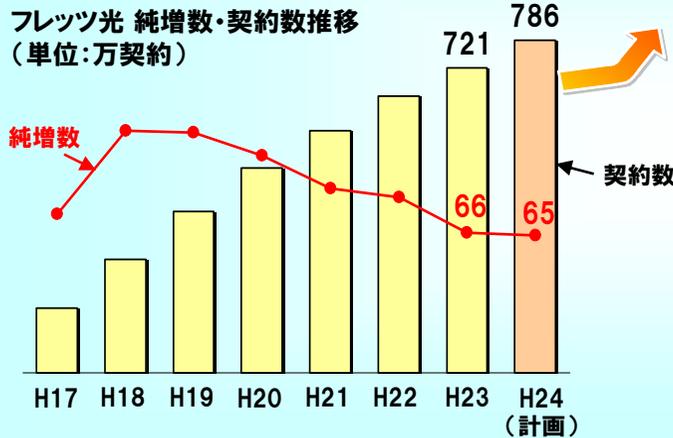
- 長期利用ユーザへの割引プランの訴求やフレッツ光×Wi-Fiの推進による新たな利用シーンの提供など、光の『利用促進』に取組み、光純増確保によるIP系サービス収入の拡大を図る。
 『“より多くのお客様”へのブロードバンド環境の提供』から、『“豊かな”ブロードバンド生活の提供』へ
- 加えて、継続的なコスト削減による『財務基盤の強化』に取組み、目標利益確保を目指す。
- 更には、成長戦略分野において、『クラウド』・『家デジ』に続く新たな収益源を創出し、収益の柱に育てていく。

IP系サービス収入の拡大

「より多くのお客様へ」
 ～ 普及拡大 ～

「より永くより豊かに」
 ～ 付加価値拡大 ～

フレッツ光 純増数・契約数推移
 (単位:万契約)



- 永くお使いいただくための料金プラン・サービスの充実
 - ・光もっと割引の積極提案
 - ・フレッツ 光ライトの普及拡大
 - ・『CLUB NTT-West』の魅力度向上

- 新たな利用シーンの提供
 - ①フレッツ光×Wi-Fiの推進
 - ・フレッツ光モバイルパックの提供
 - ・フレッツスポット エリア拡大
 - ・サポート体制の充実
 - ②アライアンスによる新サービスの提供
 - ・くらしフルサービス、ひかり機器保証、光BOX+ 等

成長戦略ビジネスの拡大

- クラウドビジネス
- 家デジ etc

アライアンスを中心に新サービスを創出し、新たな収益の柱に育てていく。

光純増の確保

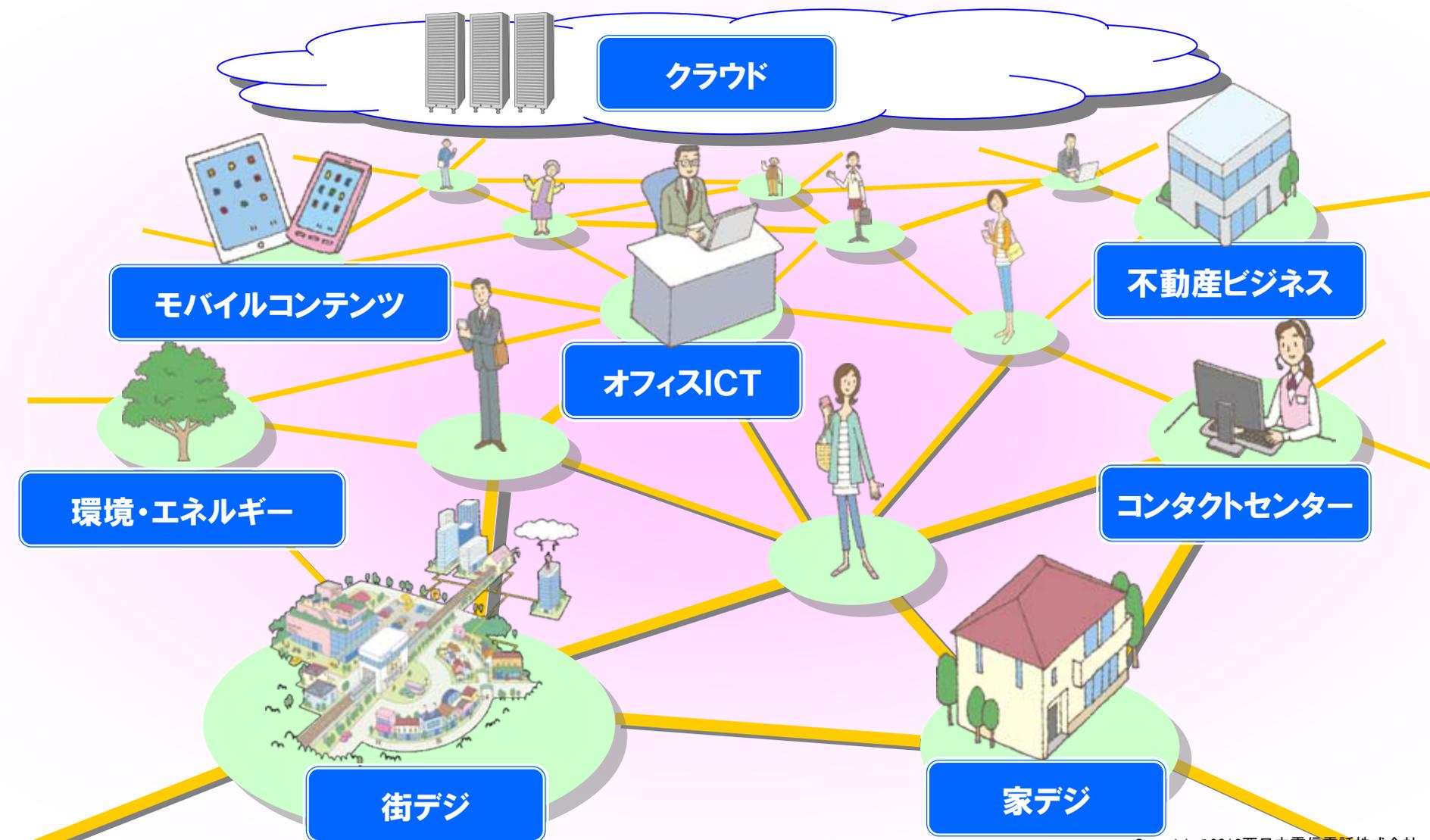
コスト削減

財務基盤の強化

- 内製化の徹底、生産性の向上
- 設備投資の効率化
- 更なる拠点集約 等

成長戦略のビジネス展開

➤ コア事業である『光』から得た強みを活かし、新たな事業領域へビジネスを展開していく。



クラウドビジネスの取組み

- 平成23年3月、クラウドビジネスに本格参入。初年度の実績は200億円。
- 今後、更なるサービスメニューの拡充・クラウドビジネス推進体制の充実・強化を図っていく。

平成23年度の取組み

クラウドビジネス販売状況：200億円

- ✓ BCPニーズによりデータセンタ販売が好調
- ✓ 企業・自治体向けのプライベートクラウドの実績拡大

◆Bizひかりクラウドメニューの提供

- NTT西日本の強みである、NW・データセンタを活用したBCPメニュー、コミュニティ向けのメニューの提供



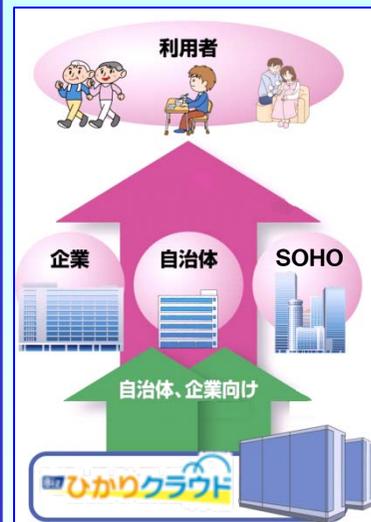
- 「スマートひかりタウン熊本」PJの立上げ (H24年2月14日)

- パートナー企業とのアライアンス推進



今後の取組み

◆Bizひかりクラウドサービスメニューの拡充



- ・「スマートひかりタウン熊本」における官民連携でのトライアル実施等、新たなBtoG(B)toCメニューの開発・展開

- ・自治体、大学、医療等、特定業種向けBtoG(B)メニューの拡充
- ・パートナーアライアンスの推進による利活用モデルの創出

- ・クラウドサービスを支える、安心・安全なNW・データセンタ基盤の更なる高度化

◆クラウドビジネス推進体制強化

- 平成25年「うめきた」にNTT西日本グループのクラウドサービス開発・戦略拠点を集約(予定)
- ✓ クラウドビジネス部・NTTスマートコネク社等で500名体制

うめきた・グランフロント大阪

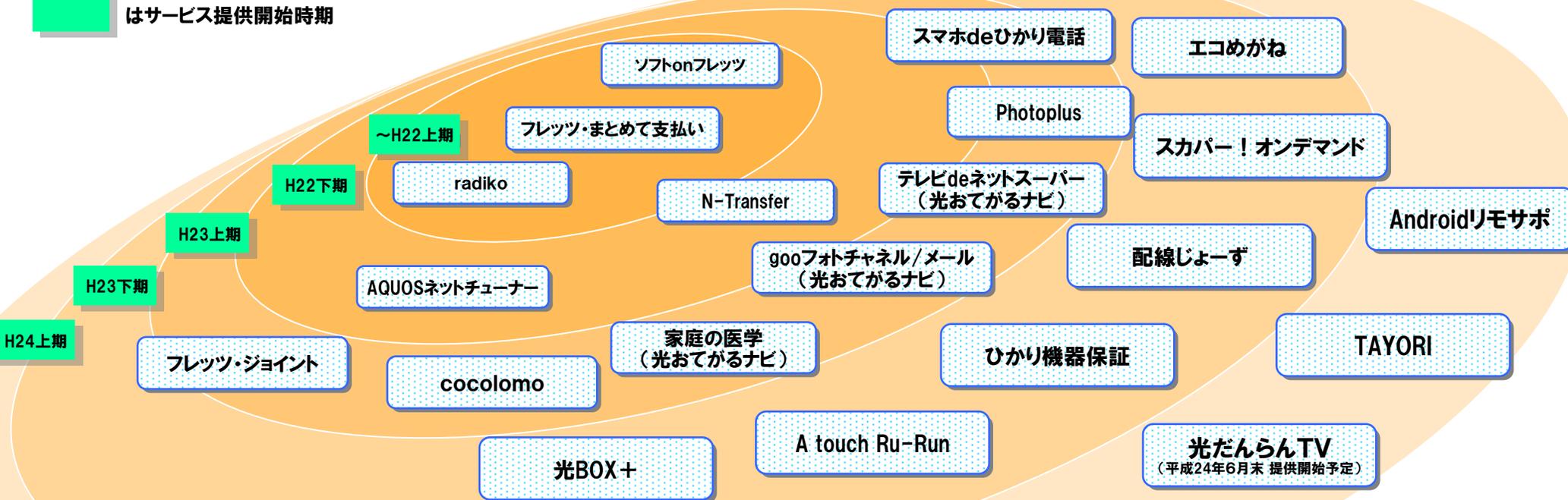


<平成25年度入居予定>

家デジサービスの更なる展開

- これまで様々な「家デジ」サービスを提供してきたが、今後も更にサービスを展開していく。
- 特にコミュニケーションサービス・アシストサービスについては、矢継ぎ早にサービス提供を行っていく。

 はサービス提供開始時期



コミュニケーションサービスの拡充

	3月12日 提供開始
	4月23日 提供開始
	6月末 提供開始予定

※商標登録出願中

アシストサービスの拡充・体制強化

	3月5日 提供開始
	5月7日 提供開始
	7月1日 統合予定

光だんらんTV

“今ある”大画面テレビで空間共有(だんらん)できる！

特長①

“今ある”テレビで空間共有

むかしむかし
あるところに...



大画面でもきれいな画像で、
同じ場所にいるような空気感を共有

離れて住むおばあちゃんが、絵本の
読み聞かせができる

特長②

“今ある”テレビをスマート化

相手と話しながら写真や
動画の共有をしたり、
テレビでインターネットも楽しめる

すごい！
がんばったね！

赤組が
勝ったよ！



離れて住むおじいちゃんも、
一緒に写真を見ながら盛り上がる

特長③

手軽・安心なご利用料金

光だんらんTV ※
便利・手軽な機器レンタルプラン
あとはテレビにつなぐだけ

+

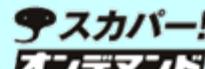
新たなテレビ電話定額
安心・おトクなかけ放題プラン
料金気にせず楽しめる

※商標登録出願中

光BOX+

ネット上に溢れる様々なコンテンツ(動画やサービス)を
テレビを見るように気軽に楽しむことができる。

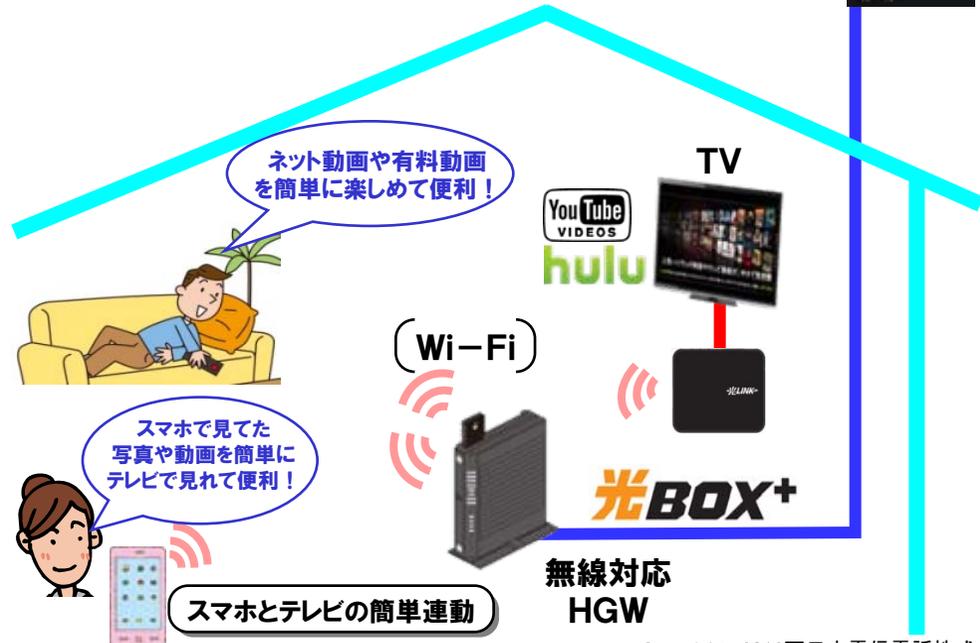
今後の提供予定



インターネット

「光おてがるナビ※」で
インターネットを簡単に

※インターネット機能を更に使い
やすくするアプリケーション



環境・エネルギーの取組み

- 夏の電力需給逼迫時に、各家庭に節電依頼を行い節電にご協力していただくことで、電力のピークカットに貢献するサービス(デマンドレスポンス)のトライアルを7月から実施。
- NTTスマイルエナジーの「エコめがね」を使って効果測定等を行う。

期間(予定)

平成24年7月 ~ 9月(3ヶ月)

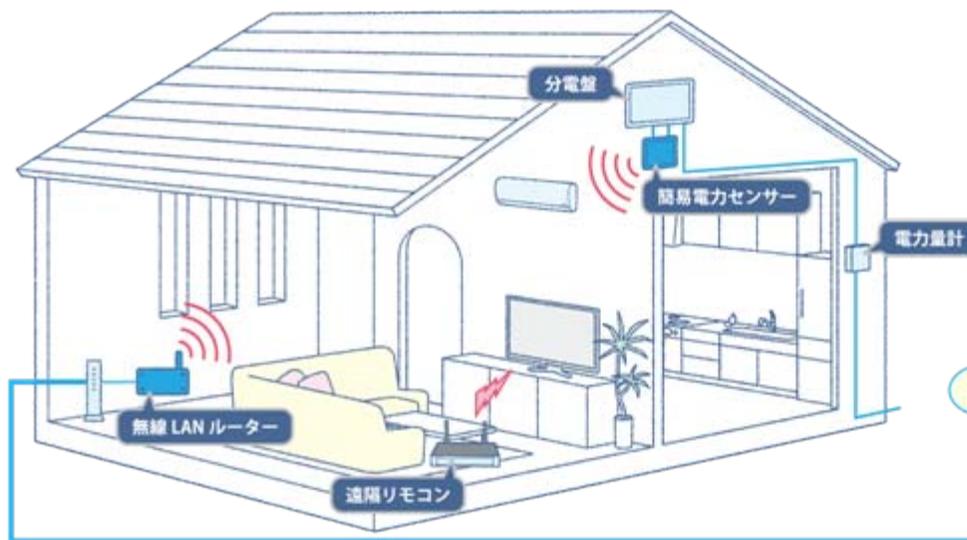
エリア

関西地区を中心とした 約300世帯

検証項目

- ①節電依頼に基づく節電効果の測定
- ②サービス受容性調査
- ③技術検証(人間行動学含む) 等

全体構成図



専用Webサイト



各家庭で節電成果の確認



遠隔制御センター



- ・メール等で節電依頼
- ・遠隔リモコンで家電(エアコン、TV等)を一斉制御

節電依頼に基づき節電を実施

節電依頼
節電実施

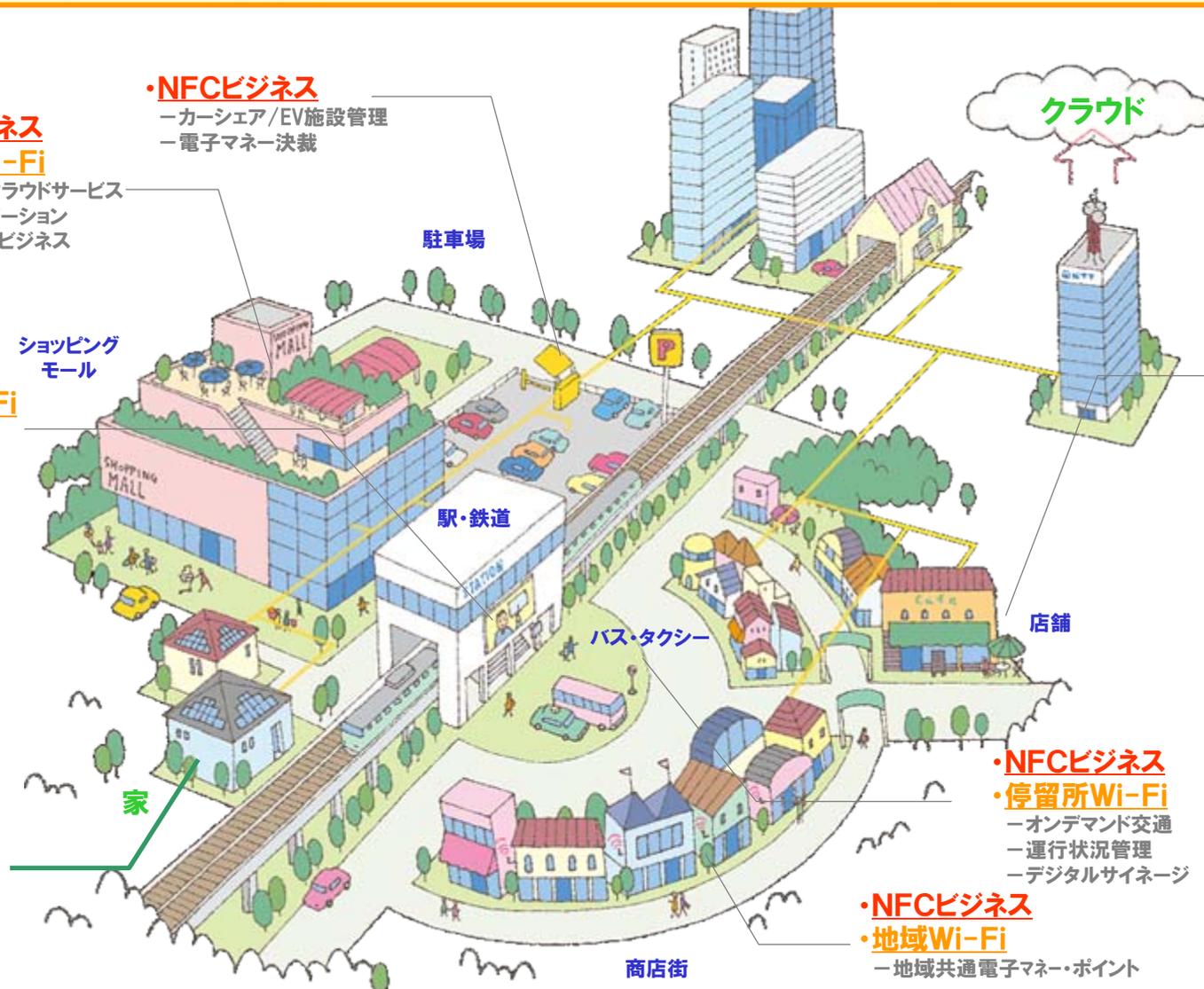
アンケート(節電実施内容等)の報告 等

➤街の様々な場所に**光+Wi-Fi&NFC端末をインフラとして整備し**、スマートフォンとの接点を作り出すことで、サービス事業者の皆様と共により安価に、より便利なサービスを提供していくビジネス構想。中でも、今後拡大が想定されるNFCビジネスに注力していく。

- NFCビジネス
 - 施設用Wi-Fi
- カーシェア/EV施設管理
—電子マネー決済
- お店向けクラウドサービス
—屋内ナビゲーション
—O2O関連ビジネス

- 構内Wi-Fi
- デジタルサイネージ

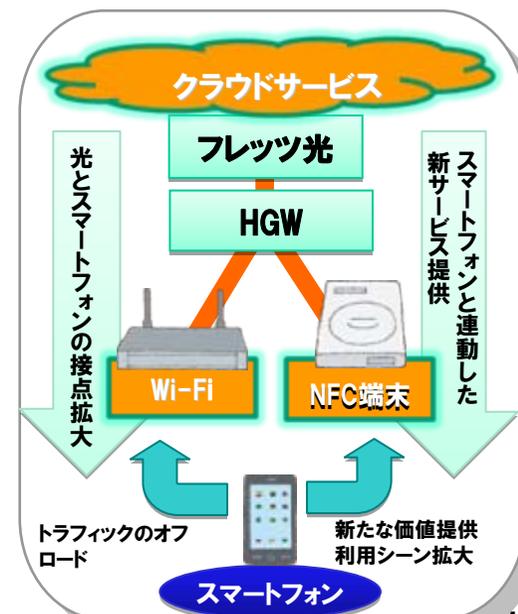
- 家デジ
- エネルギー



*NFC: Near Field Communication
(近距離無線通信技術)

- NFCビジネス
 - 店舗用Wi-Fi
- お店向けクラウドサービス
—電子マネー決済

- NFCビジネス
 - 停留所Wi-Fi
 - NFCビジネス
 - 地域Wi-Fi
- オンデマンド交通
—運行状況管理
—デジタルサイネージ
- 地域共通電子マネー・ポイント



本資料及び本説明会における説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明は、現在当社の経営陣が入手している情報に基づいて行った判断・評価・事実認識・方針の策定等に基づいてなされもしくは算定されています。

また、過去に確定し正確に認識された事実以外に、将来の予想及びその記述を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を用いてなされもしくは算定したものです。

将来の予測及び将来の見通しに関する記述・言明に本質的に内在する不確定性・不確実性及び今後の事業運営や内外の経済、証券市場その他の状況変化等による変動可能性に照らし、現実の業績の数値、結果、パフォーマンス及び成果は、本資料及び本説明会における説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明と異なる可能性があります。